

# 米軍基地環境カルテ

キャンプ瑞慶覧（施設番号：FAC6044）

沖 縄 県

## 改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」及び防衛省・自衛隊ホームページ「在日米軍施設・区域別一覧（令和2年3月31日現在）」の内容を反映させた改訂。

年月日	頁	該当箇所	追補・変更内容
平成 31 年 3 月 4 日	42-20	42.6 その他情報	表 42-4、年月日『1975 年 9 月 12 日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1977 年、1979 年』の項目を追加
平成 31 年 3 月 29 日	42-23	42.7 環境等に関する通常監視について	化審法第一種特定物質等を含む地下水質調査結果
令和 2 年 3 月 20 日	42-20	42.6 その他情報	表 42-4、年月日『1967 年 6 月 16 日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1967 年 6 月 18 日』の項目を追加 『1968 年 1 月 10 日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1968 年 9 月 14 日』の項目を追加 『1969 年 7 月 11 日』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1970 年 1 月 22 日』及び『1973 年 11 月 1 日』の 2 項目を追加
令和 3 年 3 月 30 日	42-21	42.6 その他情報	表 42-4、年月日『1977 年、1979 年』の項目の次に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『1964 年 10 月』及び『1991 年 3 月 22 日』の項目を追加
令和 3 年 3 月 30 日	42-23	42.7 環境等に関する通常監視について	化審法第一種特定物質等を含む地下水質調査結果



# 目次

42. キャンプ瑞慶覧（施設番号：FAC6044）	1
42.1 基本情報	1
42.1.1 名称	1
42.1.2 所在地、広さ（施設面積）	1
42.1.3 施設の概要等	2
42.1.4 施設の管理及び用途	3
42.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	3
42.1.6 土地利用規制図	5
42.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	6
42.2.1 基地等の土地の状況	6
42.2.1.1 地形分類図	6
42.2.1.2 表層地質図	6
42.2.1.3 土壌図	6
42.2.1.4 切盛土分布図	6
42.2.2 基地内の施設の使用状況	6
42.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	6
42.2.2.2 施設等使用履歴	8
42.3 基地等の環境状況	11
42.3.1 自然環境（植物）	11
42.3.1.1 現存植生図	11
42.3.1.2 植生自然度	11
42.3.1.3 特定植物群落	11
42.3.1.4 重要な種、貴重な種等	12
42.3.2 自然環境（動物）	12
42.3.2.1 重要な種、貴重な種等	12
42.3.3 水利用状況	13
42.3.3.1 水利用状況	13
42.3.3.2 井戸・湧水地点	14
42.3.3.3 河川及びダムの分布状況	15
42.3.4 地下水の状況	16
42.3.4.1 地下水基盤面等高線図	16
42.4 当該施設に係る環境関連事故等	16
42.4.1 事故等の概要	16
42.4.2 事故等発生場所	19
42.5 環境調査を実施する場合の留意事項	19
42.6 その他情報	20

42.7 環境等に関する通常監視について .....	22
----------------------------	----

## 42. キャンプ瑞慶覧（施設番号：FAC6044）

### 42.1 基本情報

#### 42.1.1 名称

キャンプ瑞慶覧（施設番号：FAC6044）

#### 42.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和47年5月15日>

所在地：コザ市、宜野湾市、北谷村、北中城村

広 さ：約7,960千㎡

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15メモ等）（仮訳）」（1972年5月）

（[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02\\_03.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf)）を参照

<平成30年12月末日現在>

所在地：北谷町、北中城村、宜野湾市、沖縄市、うるま市

広 さ：5,341千㎡（令和2年3月31日現在）

地主数：4,817人

駐留軍従業員数：2,300人

出典：防衛省・自衛隊ホームページ「在日米軍施設・区域別一覧（令和2年3月31日現在）」

（[https://www.mod.go.jp/j/approach/zaibeigun/us\\_sisetsu/pdf/ichiran\\_r020331.pdf](https://www.mod.go.jp/j/approach/zaibeigun/us_sisetsu/pdf/ichiran_r020331.pdf)）及び「沖縄の米軍基地」（平成30年12月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

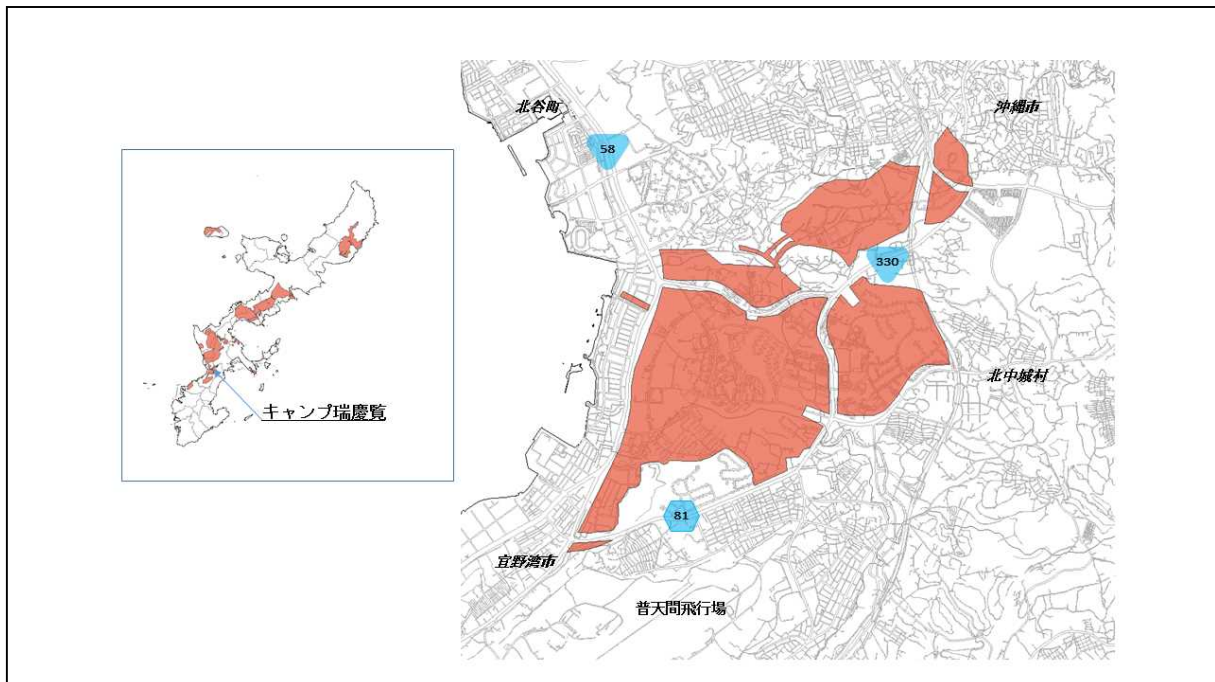


図 42-1 キャンプ瑞慶覧の位置図（平成28年時）

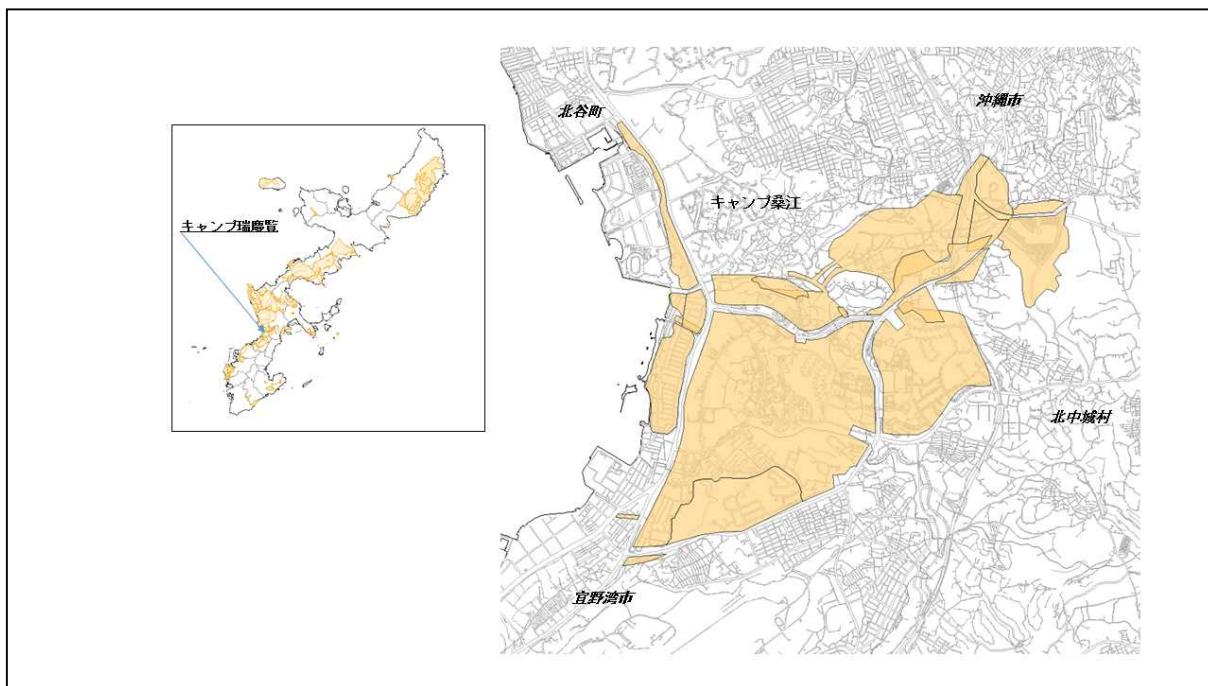


図 42-2 キャンプ瑞慶覧の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

図 42-3 キャンプ瑞慶覧の航空写真

### 42.1.3 施設の概要等

キャンプ瑞慶覧はキャンプ・フォスターとも呼ばれ、本島中部の宜野湾市、沖縄市、うるま市、北谷町、北中城村にまたがる、本県で 7 番目に大きい米軍施設である。

当該施設には、海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部、第 1 海兵航空団司令部、在日米軍沖縄調整事務所が置かれ、キャンプ・コートニーと並ぶ海兵隊の中核機能を有しているほか、基地運営業務及び射撃場、訓練場などの施設管理、後方支援等を担っている。



この施設には、かつて沖縄駐留米陸軍の司令部が置かれていたが、昭和 49 年 6 月の陸軍の機構再編に伴い、その機能も縮小され、昭和 50 年 6 月に同司令部が牧港補給地区へ移駐した後、同年 6 月 30 日に施設管理権も陸軍から海兵隊に移った。同年 7 月、第 12 海兵連隊がキャンプ・ヘーグから、同年 8 月、海兵隊基地司令部がキャンプ・マクトリアスからそれぞれ移駐し、さらに昭和 51 年 4 月には、第 1 海兵航空団司令部が岩国基地から移駐し、今日のような海兵隊の主要施設となった。

同施設・区域は大きく分けて、在沖米海兵隊基地司令部のあるバトラー地区、第 78 通信大隊が所在するバックナー地区、米軍住宅が所在するプラザ地区、兵器・器材整備施設及び各隊舎が所在するフォスター地区から構成されている。

なお、ハンビー飛行場を含む国道 58 号の西側部分は、第 15 回日米安全保障協議委員会で移設条件付返還が合意し、昭和 56 年 12 月 31 日に返還された後、商業地区、住宅地区及び海浜リゾート地区として有効利用されている。

また、平成 25 年には、キャンプ桑江から海軍病院がキャンプ瑞慶覧へ移転した。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### 42.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部

使用部隊名：米海兵隊太平洋基地司令部、海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部及び同本部役務大隊、第 3 海兵遠征軍（第 3 戦闘兵站連隊、第 3 歯科大隊、第 3 医療大隊、第 1 海兵航空団司令部、同司令本部中隊、第 18 海兵航空通信中隊、第 172 海兵航空支援中隊）、米陸軍第 78 通信大隊司令部

使用主目的：宿舎、補助飛行場、通信所及び管理事務所

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

#### 42.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

嘉手納飛行場以南の土地の返還見込みを図 42-4 に示す。

<必要な手続の完了後に速やかに返還可能となる区域>

- ・施設技術部地区内の倉庫地区の一部は平成 31 年度またはその後

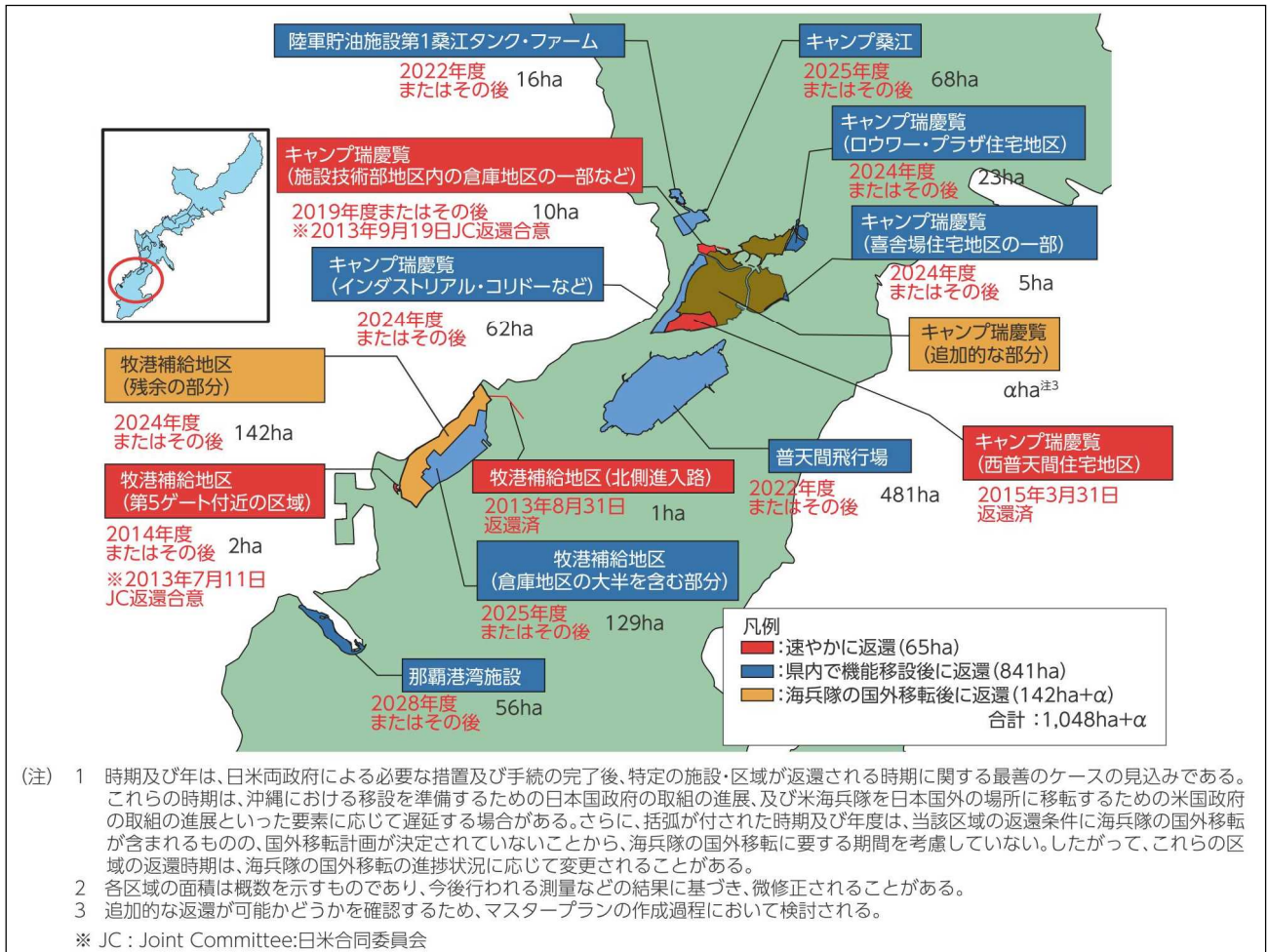
<沖縄において代替施設が提供され次第、返還可能となる区域>

- ・ロウワー・プラザ住宅地区は平成 36 年度またはその後
- ・喜舎場住宅地区の一部は平成 36 年度またはその後
- ・インダストリアル・コリドーは平成 36 年度またはその後

<米海兵隊の兵力が沖縄から日本国外の場所に移転するにともない、返還可能となる区域>

- ・キャンプ瑞慶覧の追加的な部分は、マスタープランの作成過程において検討される

出典：「防衛白書（日本の防衛）平成 28 年版」（2016、防衛省）を参照



出典：「防衛白書（日本の防衛）平成 28 年版」（2016、防衛省）より引用

図 42-4 嘉手納飛行場以南の土地の返還見込み

<返還計画>

平成 8 年 3 月 28 日の日米合同委員会で、嘉手納弾薬庫地区内（旧東恩納弾薬庫）に移設することを条件に、平成 15 年度頃を目途に泡瀬ゴルフ場（約 47 ヘクタール）を返還することが合意された。平成 22 年 2 月に同移設工事が終了し、平成 22 年 7 月に泡瀬ゴルフ場部分が返還された。

SACO 最終報告では、平成 19 年度末までを目途に、キャンプ桑江及びキャンプ瑞慶覧の米軍住宅地区を統合し、これらの施設及び区域内の住宅地区の土地の一部（キャンプ瑞慶覧については約 83 ヘクタール）を返還することが合意されている。

また、「再編実施のための日米のロードマップ」では、キャンプ瑞慶覧については、部分返還及び残りの施設とインフラの可能な限りの統合を図ることが示された。その後、平成 25 年 4 月に発表された統合計画では、西普天間住宅地区（約 52 ヘクタール）及び施設技術部地区内の倉庫地区の一部（約 10 ヘクタール）が、速やかに返還が可能な区域として、ロウワー・プラザ住宅地区（約 23 ヘクタール）、喜舎場住宅地区の一部（約 5 ヘクタール）、インダストリアル・コリドー（約 62 ヘクタール）が代替施設が提供され次第返還可能な区域として整理されるとともに、それ以外の追加的な部分についても海兵隊の国外移転後等に返還されることが示された。

平成 27 年 3 月に SACO 最終報告及び統合計画に基づき、西普天間住宅地区が返還されたほか、統合計画に基づく各施設の移転先となるトリイ通信施設のマスタープランが平成 26 年 4 月に、嘉

手納弾薬庫地区のマスタープランが平成 27 年 1 月に、それぞれ日米合同委員会で合意されている。

#### <跡地利用計画>

同施設周辺は、那覇市と沖縄市を結ぶ都市軸上に位置しており、中南部都市圏整備において重視される地域の一つである。

返還跡地利用については、昭和 56 年 12 月 31 日、ハンビー飛行場が返還され、国道 58 号沿いの西側一帯は地域経済活性化のための基盤整備として、それぞれ土地区画整備事業（桑江、北前地区）が行われるなど、新たな街を形成している。特に、ハンビー飛行場跡は、本県の米軍基地跡地利用の最も成功した事例として知られ、大手スーパーの設置や駐車場を生かした郊外型店舗が建ち並び海浜公園と連動するなど、隣接市町村から多くの人を訪れる活気ある街が形成されている。

##### a 宜野湾市

平成 27 年 3 月に返還された西普天間住宅地区については、平成 25 年 4 月の「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」により、平成 26 年度又はその後に返還することが示されたことを受け、それまでに策定されていた跡地利用基本計画を見直す作業に平成 25 年度から着手し、平成 27 年 7 月に跡地利用計画を策定している。

##### b 沖縄市

SACO 最終報告で平成 19 年度末を目途に返還合意されたキャンプ瑞慶覧の一部区域については、北中城村との複雑な行政界がまたがる地区特性を踏まえ、平成 15 年度より両市町村が一体となった跡地利用の統一案に着手し、平成 16 年度に統一基本計画を策定した。

また、平成 18 年度には、統一案の実現化に向けた検討が行われており、平成 20 年度以降は、返還後の跡地利用への早期取組を目指し、事業コストを勘案した土地利用の検討、地権者の合意形成等の促進に向けて検討している。

##### c 北中城村

泡瀬ゴルフ場は、平成 22 年に返還され、医療福祉施設ゾーン、複合型商業交流施設ゾーン、健康・スポーツ交流施設ゾーン、住宅ゾーンを有する土地区画整理事業による跡地利用を行っている。

SACO で返還が合意されているロウワープラザ地区については、沖縄市と合同で跡地利用に取り組み、平成 18 年度には整備計画を策定している。平成 20 年度以降は早期の跡地利用への取組を目指し、土地利用の検討、合意形成等の促進、土地の先行取得に取り組んでいる。喜舎場ハウジング地区については、平成 17 年度に整備計画を策定し、喜舎場スマート I C の供用開始以降は、当該地区の利用向上を図るため、スマート I C のフルインター化に向けた検討業務に取り組んでいる。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### 42.1.6 土地利用規制図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の土地利用規制図を図面集「[土地利用規制図 C](#)」に示す。

## 42.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

### 42.2.1 基地等の土地の状況

#### 42.2.1.1 地形分類図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の地形分類図を図面集「[地形分類図C](#)」に示す。

#### 42.2.1.2 表層地質図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の表層地質図を図面集「[表層地質図C](#)」に示す。

#### 42.2.1.3 土壌図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の土壌図を図面集「[土壌図C](#)」に示す。

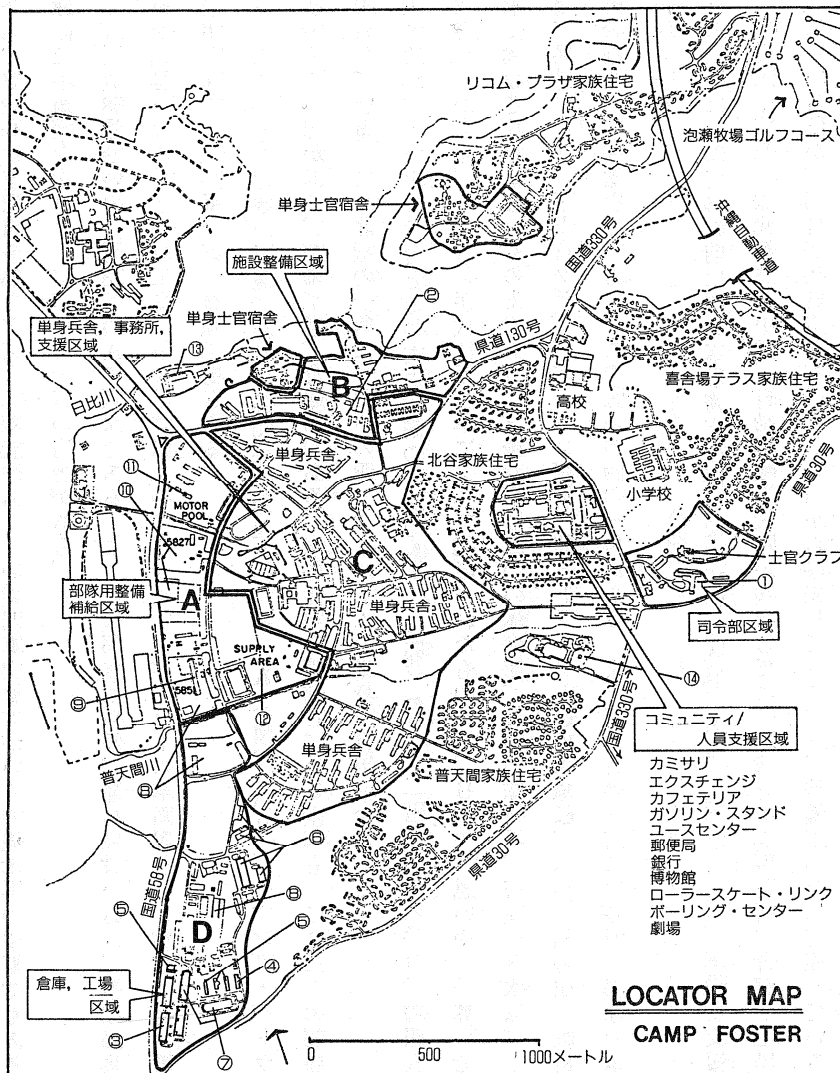
#### 42.2.1.4 切盛土分布図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の切盛土分布図を図面集「[切盛土分布図C](#)」に示す。

### 42.2.2 基地内の施設の使用状況

#### 42.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

米海軍施設技術軍太平洋部「キャンプ・バトラー・マスタープラン」（1980年9月、情報公開法にもとづく公開）を基にしたキャンプ瑞慶覧の施設配置図を図 42-5 に示す。

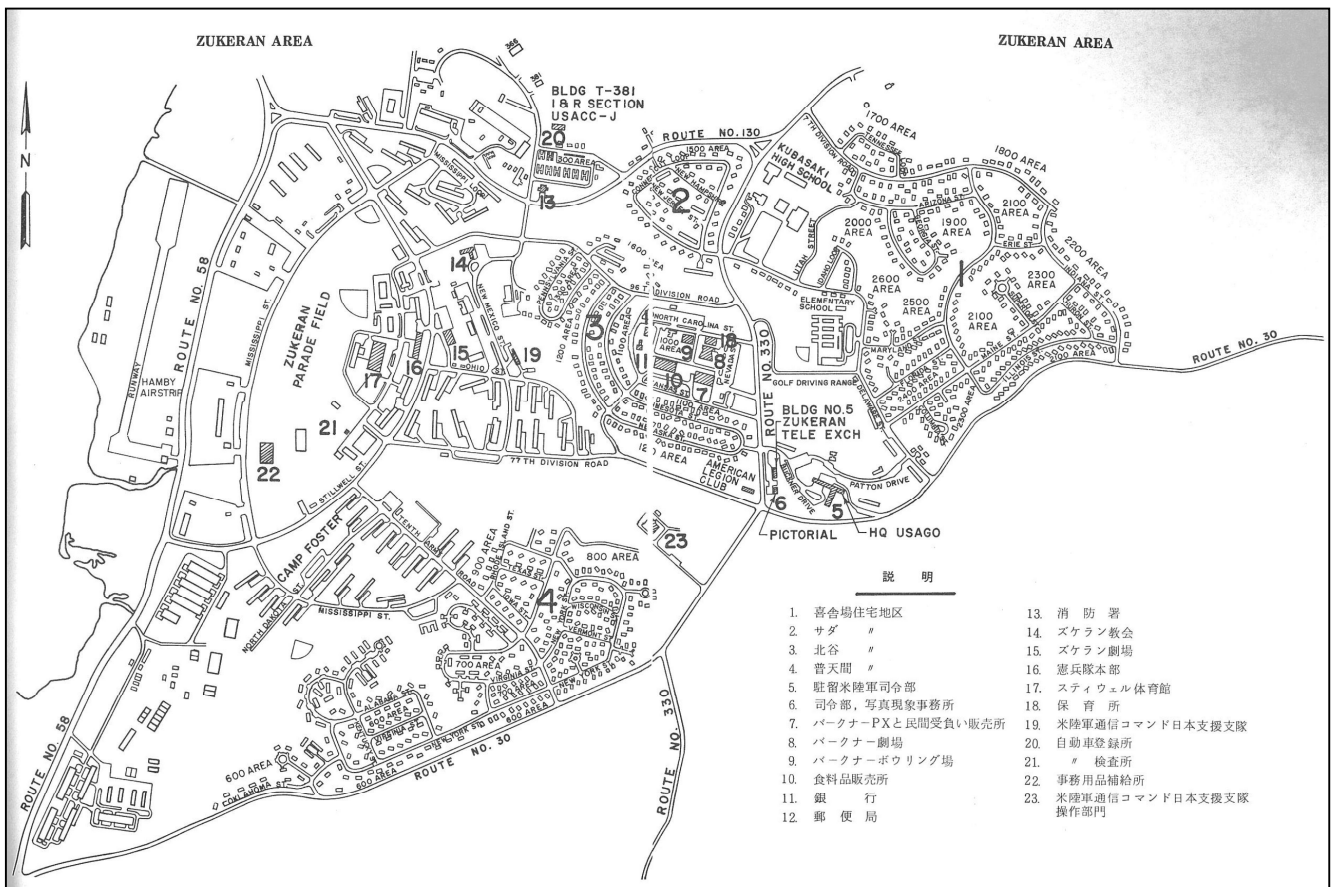


番号説明	
①	海兵隊基地キャンプ・バトラー司令部 ／第1海兵航空団司令部
②	キャンプ・バトラー施設技術部司令部ほか事務所・工場
③	第3軍役務支援群上陸支援大隊
④	第3軍役務支援群整備大隊武器整備中隊
⑤	第1海兵航空団第17航空団支援群
⑥	第1海兵航空団第17航空団支援群倉庫
⑦	キャンプ・バトラー倉庫
⑧	第3軍役務支援群自動車輸送大隊車両整備区域
⑨	第18海兵航空団管制中隊および空軍電子整備工場
⑩	第12海兵連隊車両・武器整備工場
⑪	キャンプ・バトラー車両整備と車両おき場
⑫	キャンプ・バトラー倉庫類
⑬	キャンプ・バトラー事務所（旧監獄）
⑭	陸軍通信施設

出典：「情報公開法でとらえた沖縄の米軍」（1994、梅林宏道）を引用

図 42-5 キャンプ瑞慶覧の施設配置図

「沖縄の米軍基地」で確認したキャンプ瑞慶覧の施設配置図を図 42-6 に示す。



出典：「沖縄の米軍基地」（昭和54年3月、沖縄県渉外部）より引用

図 42-6 キャンプ瑞慶覧の施設配置図



#### 42. 2. 2. 2 施設等使用履歴

昭和 20 年	軍事占領の継続として使用開始。
昭和 27 年 7 月	宜野湾村字伊佐浜の土地を接收。
昭和 47 年 5 月 15 日	キャンプ瑞慶覧とキャンプ・フォスターが統合され、「キャンプ瑞慶覧」として提供施設・区域となる。
昭和 48 年 8 月 15 日	通信ケーブル用地約 3,000 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 49 年 6 月 6 日	土地約 2,300 m <sup>2</sup> （イーズメント）と工作物（通信線（1,100m）、マンホール）を追加提供。
昭和 49 年 9 月 30 日	土地約 346,000 m <sup>2</sup> （国道 330 号沿い）を返還。
昭和 50 年 3 月 31 日	土地約 5,000 m <sup>2</sup> （那覇～糸満間の通信ケーブル）を返還。
昭和 50 年 6 月 16 日	沖縄駐留米陸軍司令部が牧港補給地区に移転。
昭和 50 年 6 月 30 日	施設管理権が、陸軍から海兵隊に移管。
昭和 50 年 7 月	第 12 海兵連隊がキャンプ・ヘーグから移転。
昭和 50 年 8 月	在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ・マクトリアスから移転。
昭和 51 年 4 月	第 1 海兵航空団司令部が岩国基地から移転。
昭和 52 年 1 月 27 日	保安柵として、工作物（保安柵）を追加提供。
昭和 52 年 3 月 14 日	土地約 100 m <sup>2</sup> （石川リピーター・ハット）を返還。
昭和 52 年 5 月 14 日	第 15 回安保協了承部分の土地約 70,000 m <sup>2</sup> （国道 58 号西側の一部）を返還。
昭和 52 年 12 月 15 日	キャンプ・ヘーグの土地約 1,300 m <sup>2</sup> （通信ケーブル部分）を統合。
昭和 53 年 3 月 31 日	土地約 20 m <sup>2</sup> （旧キャンプ・マーシー在のリピーター・ハット用地）を返還。
昭和 54 年 3 月 22 日	通信施設として、土地 3 m <sup>2</sup> （イーズメント）及び工作物（通信装置）を追加提供。
昭和 54 年 5 月 4 日	送油施設として、工作物（送油管）を追加提供。
昭和 54 年 9 月 30 日	土地約 2,000 m <sup>2</sup> （宜野湾市の飛地）を返還。
昭和 56 年 3 月 26 日	隊舎等として、建物 19,741 m <sup>2</sup> と工作物（囲障等）を追加提供。
昭和 56 年 12 月 31 日	第 15 回安保協了承部分のハンビー地区の土地 381,955 m <sup>2</sup> 、メイ／モスカラ射撃場の土地 251,633 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 58 年 3 月 15 日	区画整理事業の土地約 900 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 58 年 11 月 1 日	通信施設として、工作物（通信線路）を追加提供。
昭和 59 年 3 月 21 日	污水管用地約 1,000 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 59 年 10 月 5 日	印刷所として、建物約 820 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
昭和 60 年 3 月 31 日	第 15 回安保協了承部分の土地約 12,000 m <sup>2</sup> （県企業局タンク周辺地域）を返還。
昭和 60 年 5 月 2 日	下水道として、工作物（下水管）を追加提供。
昭和 60 年 9 月 10 日	宿舎として、建物約 2,900 m <sup>2</sup> と工作物（舗装等）を追加提供。
昭和 60 年 10 月 31 日	通信施設として、工作物（アンテナ等）を追加提供。
昭和 60 年 11 月 8 日	保安施設等として、工作物（囲障）を追加提供。

昭和 60 年 11 月 29 日	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
昭和 61 年 2 月 18 日	土地（不要通信ケーブル及びイーズメント（本部町～玉城村間））を返還。
昭和 61 年 3 月 31 日	地域開発用地約 300 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 61 年 7 月 11 日	運動施設として、工作物（囲障等）を追加提供。
〃	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
昭和 62 年 2 月 5 日	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
昭和 62 年 5 月 14 日	特措法適用の土地約 780 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 62 年 7 月 10 日	管理棟として、建物約 1,400 m <sup>2</sup> と工作物（下水道）を追加提供。
昭和 62 年 8 月 31 日	沖縄自動車道用地約 109,000 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 62 年 12 月 11 日	隊舎等として、建物約 11,000 m <sup>2</sup> を追加提供。
昭和 63 年 11 月 2 日	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
平成元年 6 月 30 日	区画整理事業用地約 8,350 m <sup>2</sup> （旧メイノモスカラ地区）を返還。
平成元年 7 月 11 日	隊舎等として、建物約 10,000 m <sup>2</sup> と工作物（下水等）を追加提供。
平成元年 8 月 18 日	通信線路等として、工作物（通信ケーブル等）を追加提供。
平成元年 9 月 30 日	土地約 6,600 m <sup>2</sup> （普天間宮隣接区域）を返還。
〃	土地約 125 m <sup>2</sup> （イーズメント（諸見里ケーブル・ハット））を返還。
平成 2 年 1 月 31 日	土地約 3,760 m <sup>2</sup> を返還。
平成 2 年 3 月 29 日	家族住宅等として、建物約 31,000 m <sup>2</sup> 及び工作物（水道等）を追加提供。
平成 2 年 11 月 8 日	家族住宅として、建物約 17,000 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
平成 3 年 2 月 28 日	家族住宅として、建物約 28,000 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
平成 3 年 6 月 6 日	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
平成 3 年 9 月 12 日	保安施設として、工作物（囲障）を追加提供。
平成 3 年 9 月 30 日	土地約 690 m <sup>2</sup> （登川ケーブル・ハット）を返還。
平成 3 年 12 月 31 日	沖縄環状線用地約 22,100 m <sup>2</sup> を返還。
平成 4 年 1 月 31 日	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
〃	学校施設等として、建物約 15,000 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。
平成 4 年 11 月 30 日	北谷給水管用地約 1,230 m <sup>2</sup> を返還。
平成 5 年 9 月 27 日	家族住宅等として、建物約 46,000 m <sup>2</sup> と工作物（下水等）を追加提供。
平成 6 年 10 月 28 日	管理棟として、建物約 29,000 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。
平成 7 年 11 月 30 日	土地約 2,620 m <sup>2</sup> を返還。
平成 8 年 2 月 1 日	倉庫として、建物約 930 m <sup>2</sup> を追加提供。
〃	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
平成 8 年 3 月 14 日	管理棟等として、建物約 6,300 m <sup>2</sup> と工作物（運動施設等）を追加提供。
平成 8 年 6 月 30 日	瑞慶覧変電所用地約 270 m <sup>2</sup> を返還。
平成 8 年 7 月 3 日	倉庫として、建物約 8,900 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。
平成 8 年 9 月 26 日	管理棟として、建物約 2,700 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
平成 8 年 10 月 30 日	通信線路として、工作物（通信ケーブル）を追加提供。
平成 9 年 3 月 31 日	村道大平線用地約 370 m <sup>2</sup> を返還。

平成9年5月14日	特措法適用の土地約600㎡を返還。
平成9年6月19日	管理棟として、建物約5,200㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成9年6月30日	駐車場用地約353㎡を返還。
平成9年12月31日	山里進入路用地約3,000㎡を返還。
平成10年3月31日	県道宜野湾北中城線用地約16,000㎡を返還。
平成10年8月	第12海兵連隊がキャンプ・ハンセンへ移転。
平成10年12月17日	送油施設として、工作物（送油管等）を追加提供。
平成11年1月22日	電話線路として、工作物（電話線路）を追加提供。
平成11年7月15日	工場等として、建物約7,000㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成12年2月29日	宜野湾北中城線用地約32,620㎡を返還。
平成12年4月13日	厚生施設等として、建物約980㎡と工作物（電話線路等）を追加提供。
平成12年10月31日	バスターミナルとして、建物約830㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成13年3月22日	事務所等として、建物約2,600㎡と工作物（ピクニック場等）を追加提供。
平成13年10月25日	販売所等として、建物約4,600㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成14年2月7日	工場等として、建物約9,700㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成14年7月9日	家族住宅等として、建物約24,000㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成14年11月6日	管理棟等として、建物約2,700㎡と工作物（水道等）を追加提供。
平成15年3月26日	宿泊施設等とし、建物等約13,000㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成15年8月28日	管理棟等として、建物等約1,400㎡と工作物（水道等）を追加提供。
平成16年8月26日	管理棟等として、建物等約7,900㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成16年11月4日	工場等として、建物等約1,300㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成17年9月15日	家族住宅等として、建物等約45,000㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成18年2月3日	管理棟等として、建物等約29,000㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成18年3月31日	土地約590㎡（普天間ケーブル・ハット）を返還。
平成18年5月15日	管理棟等として、建物約1,600㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成18年7月14日	運動施設等として、建物約4,900㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
平成18年12月31日	土地約140㎡を返還。
平成19年3月29日	工場等として、建物等約1,000㎡と工作物（下水等）を追加提供。
平成19年4月26日	倉庫等として、建物約7,500㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
平成20年6月3日	家族住宅として、建物等約22,000㎡を追加提供。
平成22年2月26日	家族住宅として、建物等約7,700㎡を追加提供。
平成22年5月21日	防災施設として、工作物（防災施設）を追加提供。
平成22年7月31日	泡瀬ゴルフ場の土地等約468,000㎡を返還。
平成22年11月10日	雨水排水施設及び通信ケーブルとして、工作物（囲障等）を追加提供。
平成23年11月8日	防災施設として、工作物（防災施設）を追加提供。
平成24年7月11日	通信ケーブルとして、工作物（電話線路）を追加提供。
平成25年2月11日	防災施設として、工作物（下水等）を追加提供。
〃	通信ケーブルとして、工作物（電話線路）を追加提供。



- 〃 海軍病院等として、建物等約 56,000 m<sup>2</sup>と工作物（門等）を追加提供。
- 平成 26 年 2 月 19 日 通信ケーブルとして、工作物（電話線路）を追加提供。
- 平成 27 年 3 月 31 日 西普天間住宅地区約 507,000 m<sup>2</sup>を返還。
- 平成 27 年 6 月 3 日 困障等として、工作物（困障等）を追加提供。
- 平成 27 年 12 月 7 日 住宅等として、建物約 6,600 m<sup>2</sup>と工作物（雑工作物等）を追加提供。
- 平成 28 年 11 月 16 日 通信ケーブルとして、工作物（電信線路）を追加提供。
- 平成 29 年 4 月 19 日 予防医療センター・アルコールリハビリセンター等として、建物約 4,300 m<sup>2</sup>と工作物（門等）を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### <主要建物及び工作物>

- 建 物：司令部、通信施設、病院、消防署、銀行、郵便局、体育館、映画館、教会、食堂、販売所、家族住宅、小・中学校、高等学校、ボウリング場、修理工場、将校等宿舍、倉庫、管理棟、隊舎、将校クラブ、運動施設、集会所、ポンプ室、発電機室、警衛所、車庫、車両整備工場、教育施設ほか
- 工作物：保安柵、上下水道、各種競技場、駐車場、着陸帯、受変電設備、消火設備、貯油槽、橋、トンネル、プールほか

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

### 42.3 基地等の環境状況

#### 42.3.1 自然環境（植物）

##### 42.3.1.1 現存植生図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の現存植生図を図面集「[現存植生図C](#)」に示す。

##### 42.3.1.2 植生自然度

キャンプ瑞慶覧及び周辺の植生自然度を図面集「[植生自然度図C](#)」に示す。

##### 42.3.1.3 特定植物群落

キャンプ瑞慶覧及び周辺の特定植物群落を表 42-1 に示す。キャンプ瑞慶覧及び周辺の特定植物群落として「北谷城跡の植生」がある。

表 42-1 キャンプ瑞慶覧及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	北谷城跡の植生	E	亜熱帯常緑広葉高木林	

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

- A：原生林もしくはそれに近い自然林
- B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群
- D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
- F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていない

ないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H：その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年3月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

#### 42.3.1.4 重要な種、貴重な種等

キャンプ瑞慶覧のある北谷町、うるま市、沖縄市、北中城村及び宜野湾市のうち、沖縄市、北谷町及び宜野湾市で確認された重要な種、貴重な種等（植物）は108種類ある。

出典：「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編 ー自然編ー」（2007、沖縄市総務部総務課）、  
「北谷町史 第一巻附録」（2005、北谷町史編集事務局）、  
「宜野湾市史 第九巻資料編八 自然」（2000、沖縄県宜野湾市教育委員会文化課）を参照

### 42.3.2 自然環境（動物）

#### 42.3.2.1 重要な種、貴重な種等

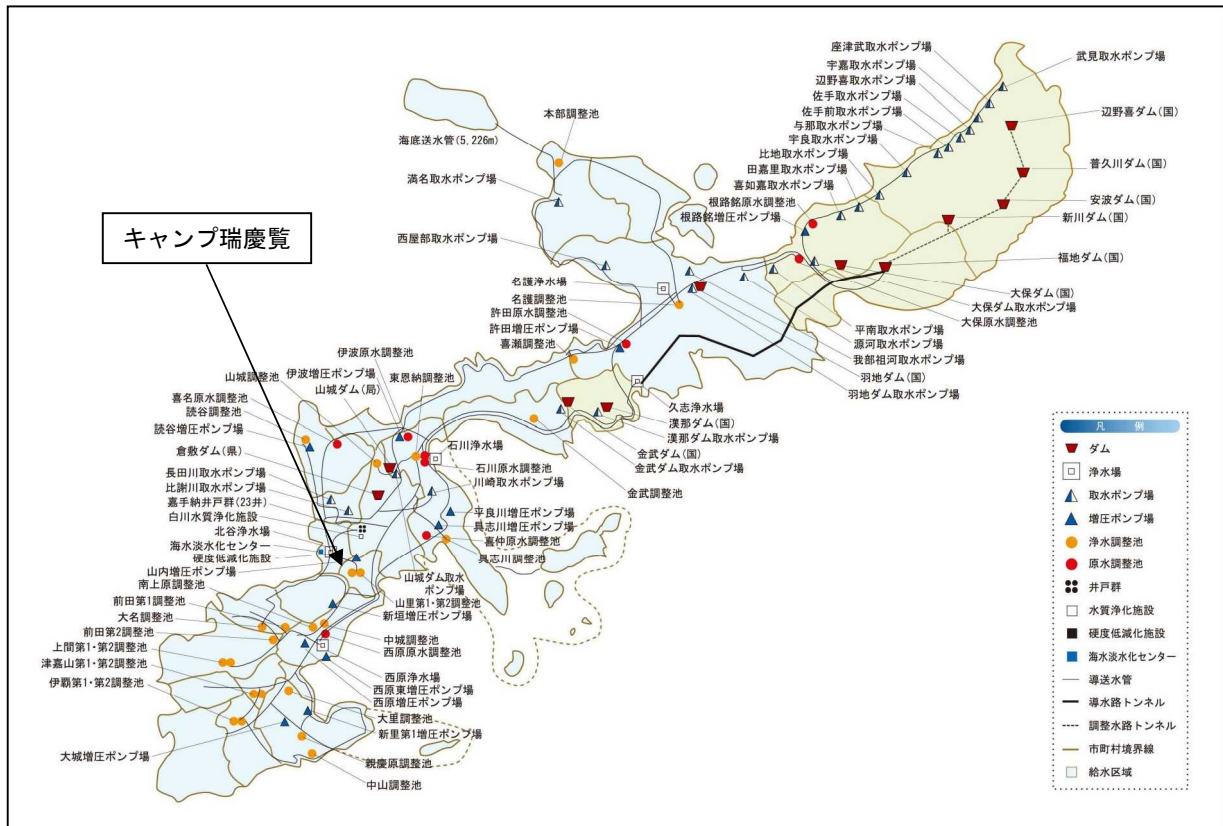
キャンプ瑞慶覧のある北谷町、うるま市、沖縄市、北中城村及び宜野湾市のうち、うるま市及び北中城村で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は47種類、沖縄市、北谷町及び宜野湾市で生息が確認された重要な種、貴重な種等（動物）は197種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針 [沖縄島編]」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）、  
「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編 ー自然編ー」（2007、沖縄市総務部総務課）、  
「北谷町史 第一巻附録」（2005、北谷町史編集事務局）、  
「宜野湾市史 第九巻資料編八 自然」（2000、沖縄県宜野湾市教育委員会文化課）を参照

### 42.3.3 水利用状況

#### 42.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図 42-7 に示す。

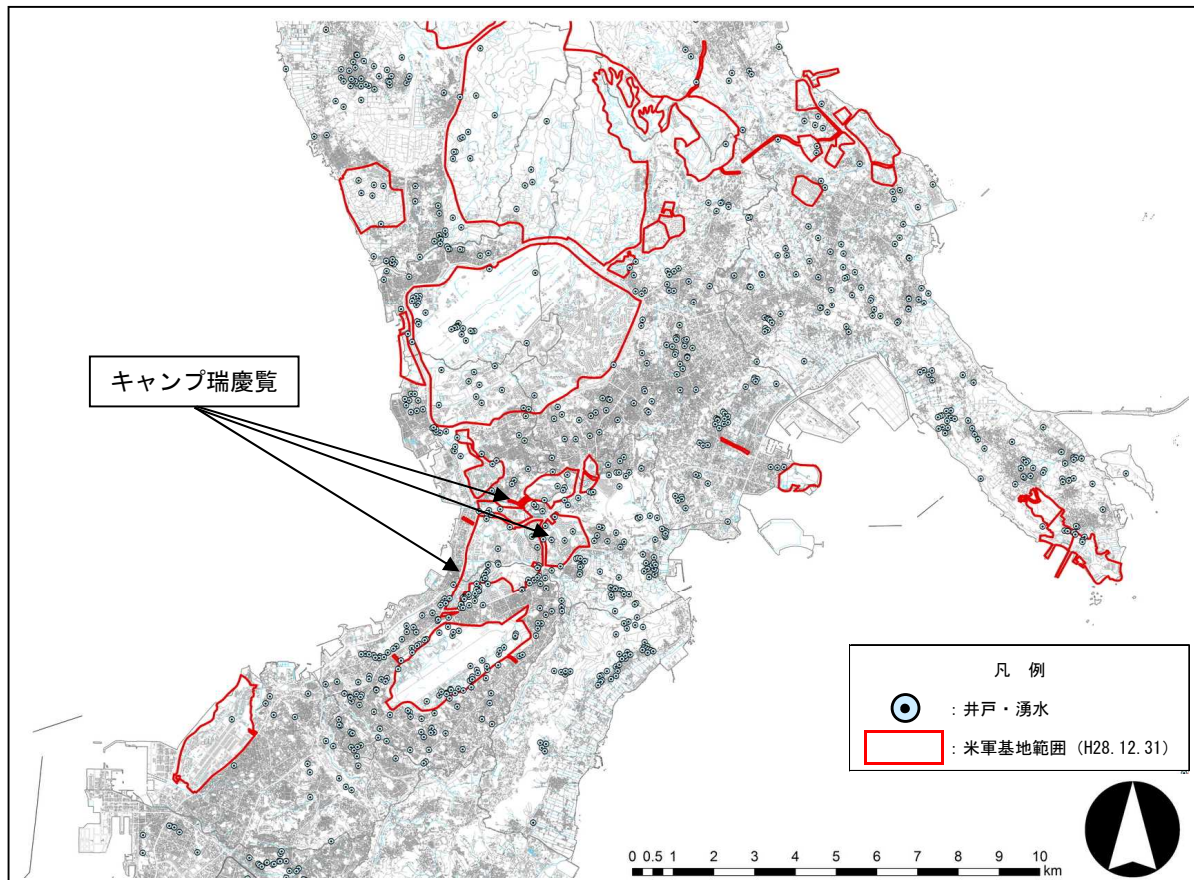


出典：「2015<平成 26 年度決算版> 環境報告書」（平成 28 年 3 月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 42-7 沖縄島及び周辺の水利用状況

### 42.3.3.2 井戸・湧水地点

キャンプ瑞慶覧及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 42-8 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平成29情使、第269号)」

注 : 本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典 : 別途記載

図 42-8 キャンプ瑞慶覧及び周辺の井戸・湧水分布状況

### 42.3.3.3 河川及びダム分布状況

キャンプ瑞慶覧及び周辺の河川、ダムの分布状況及びその概要を図 42-9、表 42-2に示す。キャンプ瑞慶覧及び周辺には、二級河川が2本ある。

なお、周辺に国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成29情複、第301号）」  
 出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、  
 「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照

図 42-9 キャンプ瑞慶覧及び周辺の河川、ダム分布状況

表 42-2 キャンプ瑞慶覧及び周辺の二級河川の概要

白比川水系	白比川	指定延長：1,800m	流域面積：8.20km <sup>2</sup>
指定区間：（左岸）北谷町字玉上伊野波原 123 番地から海に至る （右岸）北谷町字大村船作原 576 番地から海に至る			
普天間川水系	普天間川	指定延長：8,300m	流域面積：8.90km <sup>2</sup>
指定区間：（左岸）中城村字南上原山内原 344-1 地先から海に至る （右岸）中城村字南上原井水原 81-1 地先から海に至る			

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」

(<http://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/kasen/kanri/okinawanokasensiryousitu.html>、平成28年8月23日閲覧)



## 42.3.4 地下水の状況

### 42.3.4.1 地下水基盤面等高線図

キャンプ瑞慶覧及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「[地下水基盤面等高線図C](#)」に示す。

## 42.4 当該施設に係る環境関連事故等

### 42.4.1 事故等の概要

キャンプ瑞慶覧及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 42-3 に示す。キャンプ瑞慶覧及び周辺では廃油や油流出に関する事故が非常に多く、次いで生活排水等の汚水流出事故、洗剤流出事故が起きていた。

特筆すべき事故としては、昭和 49 年 9 月 24 日に北谷町で発生した薬物による沿岸汚染、平成 9 年 1 月に北谷町の排水管沈殿槽で確認された PCB 検出、平成 14 年 1 月にキャンプ瑞慶覧（メイ／モスカラ射撃場）跡地の建設工事現場の土中から、多量のタール状物質の入ったドラム缶の発見などがあった。

表 42-3 キャンプ瑞慶覧及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年月日	発生場所	概要	備考
昭和 49 年 9 月 24 日	北谷町	基地内で散布された殺虫剤ダースバーンが、降雨により排水溝から海へ流出し、沿岸を汚染するとともに多量の死魚が浮いた。	薬物による 沿岸汚染
昭和 50 年 2 月 21 日	宜野湾市 (伊佐)	旧キャンプ・フォスター地域内の車両修理工場で、河川に通ずる排水管に廃油を流し込んだため、廃油が流出し、民間地域の排水溝を通して海に流入、海域が広範囲にわたって汚染された。	廃油流出に よる沿岸汚 染
昭和 50 年 9 月 5 日	宜野湾市 (伊佐)	国道 58 号伊佐三叉路から北谷方向へ約 300m の側溝に、基地内から強い刺激臭を伴った乳白色の薬品らしきものが流出し、一部は排水溝を伝って海域へ排出した。米軍発表によると、作業ミスにより 55 ガロン入りのキャブレタークリーナー缶に穴をあけたために起こったものであった。	洗剤流出に よる海域汚 染
昭和 50 年 9 月 8 日	宜野湾市 (伊佐)	旧キャンプ・フォスター地域から伊佐三叉路より北谷方向へ約 300m の地点、国道 58 号の側溝に乳白色で刺激臭のある油が流出。	洗剤流出
昭和 50 年 10 月 3 日	北谷村 (北前)	基地内の排水溝から油が流出し、普天間川から海に流出した。	廃油流出
昭和 50 年 10 月 18 日	北谷村	北谷原付近の基地フェンスに隣接する国道 58 号の側溝に廃油が流出した。	廃油流出
昭和 50 年 11 月 28 日	北谷村 (北前)	基地内ビルディング No. 5815 地域から、国道 58 号の側溝に廃油が流出した。	廃油流出
昭和 51 年 2 月 25 日	北谷村	基地内モータープールから廃油を集荷運搬中の車両が、ドラム缶を路上に落としたため油がこぼれ、排水溝を伝って海域を汚染、クロダイアジの稚魚等に被害を与えた。	廃油流出
昭和 51 年 3 月 28 日	北谷村 (北前)	基地内の排水溝から多量の油が流出し、付近海岸を汚染した。	油流出
昭和 51 年 5 月 22 日	宜野湾市 (伊佐)	キャンプ・フォスターH地域内の自動車整備施設から、ディーゼル油 5 ガロン（米軍発表）が流出し、伊佐沿岸が広範囲にわたって汚染された。	油流出

発成年 月日	発生場所	概要	備考
昭和 51 年 6 月 2 日	北谷村 (北前)	ハンビー飛行場地区北側、沖縄電力発電所前から海へ注ぐ排水溝にディーゼル油が流入し、海域を汚染した。米軍は、モータープールで作業中にディーゼル油 50 ガロン入りのドラム缶を転倒させたためと発表。	油流出
昭和 51 年 9 月 29 日	宜野湾市 (伊佐)	旧キャンプ・フォスター地域で米兵が油を不法投棄したため、民間地域の排水溝を通して海に油が流入した。	油流出
昭和 52 年 1 月 18 日	宜野湾市 (伊佐)	基地内の生活排水がマンホールから溢れて、民間地域一帯に悪臭をまき散らした。	汚水排水による悪臭
昭和 52 年 8 月 22 日	北谷村 (北前)	基地内排水溝から普天間川へ油が流出し、北前沿岸を汚染した。	油流出
昭和 53 年 10 月 20 日	宜野湾市 (伊佐)	基地内の排水溝から、石川原川を通過して海域へ廃油が流出し、石川原川河口と付近海域が汚染された。	油流出
昭和 54 年 1 月 22 日	北中城村	施設内のモータープールから、北谷発電所横の排水溝及び付近の海域に廃油が流出した。	廃油流出
昭和 54 年 6 月 18 日	北中城村	施設内から廃油のタレ流しがあり、普天間川を伝って北前海岸に流出した。	廃油流出
昭和 54 年 10 月 22 日	北中城村	暖房用ディーゼルの故障により、約 3,000 ガロンのオイルが流出し、普天間川に流れ込んだ。	廃油流出
昭和 56 年 1 月 9 日	北中城村	施設内のモータープールから、油が流出した。	油流出
昭和 57 年 10 月 22 日	北谷町	施設内から油が流出。排水溝の近くにモータープールがあり、流出源とみられる。	油流出
昭和 58 年 12 月 13 日	北谷町	ライカムハウジングエリアから、民間地域の排水路へ油が流出した。	油流出
昭和 58 年 12 月 14 日	北谷町	施設内のスターゲイジから、白比川に油が流出した。	油流出
昭和 58 年 12 月 16 日	北谷町	ハウジングエリア内の下水道管が破損し、施設外の農業用湧水に汚水が混入した。	汚水流出
昭和 59 年 2 月 21 日	北谷町	モータープールから油水分離槽の故障により、廃油が普天間川へ流出した。	廃油流出
平成元年 1 月 31 日	北谷町	米軍ジェット燃料が流出。米軍は「原因は地盤の緩みによるもの」と発表した。	燃料流出
平成 7 年 10 月 22 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧内から白比川（北谷町）上流に油が流出した。ディーゼルタンクの地中に埋めてあるパイプから漏出したものである。	油流出
平成 8 年 11 月 8 日	北谷町 (北前)	キャンプ瑞慶覧の国道 58 号線沿い排水溝（北谷町北前）に、約 50 ガロンの軽油（ディーゼル燃料）が、100 ヤードにわたって流れているのが発見された。	油流出
平成 9 年 2 月 20 日	北谷町	北谷町のキャンプ瑞慶覧内から国道 58 号の側溝に通じる排水管の沈殿槽より、平成 9 年 1 月、PCB が検出されていたことがわかった。	PCB 検出
平成 9 年 8 月 29 日	キャンプ瑞慶覧内	キャンプ瑞慶覧のハウジング地区（施設内）のマンホールから汚水が流れ出ているのが確認された。汚水管に紙が詰まっていたのが原因。	汚水流出

発生年月日	発生場所	概要	備考
平成 10 年 6 月 19 日	キャンプ瑞慶 覧内	キャンプ瑞慶覧のプラザ地区（施設内）のマンホールから汚水が 流れ出ているのが確認された。汚水管が何らかの原因で詰まって いたことによる。	汚水流出
平成 10 年 12 月 3 日	北谷町 （北前）	北谷町北前のキャンプ瑞慶覧北前ゲート近くで、自動車整備工場 の油水分離器から約 40 リットルのディーゼル燃料があふれ出 し、普天間川に流れた。	油流出
平成 11 年 3 月 11 日	北谷町	北谷町のキャンプ瑞慶覧北前ゲート近くのモータープールで、油 水分離器からディーゼル燃料があふれ出し普天間川に流れた。	油流出
平成 11 年 8 月 13 日	北谷町 （北前）	北谷町北前付近のモータープールから油が普天間川及び海に流 出した。	油流出
平成 12 年 5 月 29 日	宜野湾市	キャンプ瑞慶覧の車両整備場に駐車していたフォークリフトの 油圧系統から油漏れがあり、下水を通過して基地外の河川へ流出。 流出量は 5 リットル未満。	油流出
平成 12 年 8 月 25 日	宜野湾市	キャンプ瑞慶覧の車両整備場でブルドーザーのメンテナンス（油 ぬき取り作業）中に油が漏れ、下水を通過して基地外の河川へ流出。 流出量は 8 リットル未満。	油流出
平成 13 年 3 月 9 日	キャンプ瑞慶 覧内	キャンプ瑞慶覧のガソリンスタンドのパイプに生じた亀裂から ガソリンが漏れ、同地区内にある河川の湧水に流出していること が判明した。	油流出事故
平成 14 年 1 月 29 日	北谷町	昭和 56 年 12 月に返還となったキャンプ瑞慶覧（メイ／モスカラ 射撃場）跡地の建設工事現場の土中から、多量のタール状物質が 入ったドラム缶、タール状物質の流出が発見された。	タール状物 質の流出及 び悪臭
平成 14 年 6 月 16 日	北谷町	早朝、キャンプ瑞慶覧内から公共下水道へ接続する管がつまり、 生活污水が白比川に流出したもの（6 月 20 日に原因究明し対処 した）。	生活污水流 出
平成 16 年 3 月 9 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧内から、生活污水がキャンプ・フォスターに隣接 した地域（北谷町玉上）に流出した。	汚水流出
平成 16 年 5 月 21 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧内の宿舍のボイラー室から、ディーゼル油約 50 ガロンが、基地内を流れる普天間川から基地外（北谷町北前）へ 流出した。うち約 40 ガロンを米軍が回収した。	油流出
平成 16 年 7 月 6 日	沖縄市	沖縄市山里において、走行中の米軍軍用車両の荷台から変圧器が 路上に落下し、中の冷却液が流出した。	変圧器冷却 液流出
平成 16 年 7 月 22 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧の北前ゲート付近の施設内において、米軍の大型 輸送トラックから油圧システム用のオイル約 45 ガロンが流出し た。	油流出
平成 17 年 4 月 1 日	那覇市	那覇市の国道 331 号旭橋付近において、米軍トラックが油圧系か らのオイル漏れにより立ち往生した。	油流出
平成 17 年 6 月 14 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧北前ゲート付近で、燃料 0.47 リットルが施設外 に流出し、米軍が回収した。	油流出
平成 20 年 2 月 1 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧内北前ゲート付近の排水溝において、トランスミ ッションオイルが流出した。原因は基地内のガソリンスタンドの 客がオイル交換の際に誤って流したため。	油流出
平成 20 年 10 月 1 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧の高層住宅地区のボイラー室で 65 ガロン（約 246 リットル）が漏れ、室外に 5 ガロン（約 19 リットル）が流出し た。流出した油はすべて回収された。	油流出



発生年月日	発生場所	概要	備考
平成 21 年 6 月 17 日	北谷町	キャンプ瑞慶覧の建物 5970 付近の修理工場においてトラック荷台にたまっていた水にガソリンが含まれており、車両を移動した際に車両から 500 ミリリットルが地表に漏れ、排水溝から基地外に出た可能性がある。	油流出
平成 22 年 11 月 12 日	北中城村	キャンプ瑞慶覧の喜舎場ハウジングエリアで汚水漏れがあり、北中城村の白比川に流入して基地外に流出した。	汚水流出
平成 23 年 1 月 27 日	宜野湾市	キャンプ瑞慶覧（普天間ハウジングエリア）で水道管が破裂し、赤土が下流域へ流出したとの連絡が防衛局にあった。	赤土流出
平成 25 年 2 月 7 日	宜野湾市	平成 25 年 2 月 7 日 21 時頃、キャンプ瑞慶覧で居住地区のマンホールから汚水が雨水口へ流出しているのが発見された。その後の調査で流出量は約 8,000 ガロン（約 30,400ℓ）と判明した。	汚水流出
平成 26 年 12 月 10 日	北谷町	平成 26 年 12 月 10 日 7 時 30 分頃、キャンプ・フォスター内（北前側）で、海兵隊員が運転する兵站車両システム（LVS）トラックが、ガードレールに衝突した。その際、燃料タンクが破裂し、約 150 ガロン（約 567ℓ）のジェット燃料が雨水排水管に流れた。燃料は、基地内の排水管に流れ、17 時 45 分までに撤去された。	油流出

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 20 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### 42.4.2 事故等発生場所

キャンプ瑞慶覧及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

#### 42.5 環境調査を実施する場合の留意事項

キャンプ・瑞慶覧において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- 1 油流出による事故事例が多いことから、土壌汚染及び地下水汚染が懸念される。パイプラインの位置や過去の事故事例を踏まえ調査地点を設定し、その地域を重点的に、調査を行う。
- 2 過去に側溝から PCB が検出されたことがあるため、事故があった場所及びその周辺並びに地形を勘案し地質調査（ボーリング調査等）も実施する。
- 3 下水道に接続される前は、汚水処理施設が稼働していたことから、処理施設の位置を確認し地下水及び土壌汚染調査を行う必要がある。また、汚水漏れが度々発生していることから、下水施設の位置を確認し、地下水及び土壌汚染調査の必要性を検討することも重要である。

## 42.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下「NARA」という。）で収集した在日米軍関係資料のうち、キャンプ瑞慶覧及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 42-4 に示す。

キャンプ・瑞慶覧及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 42-4 キャンプ瑞慶覧及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
—	—	文書	キャンプ瑞慶覧内の道路を写した写真。
1966年 2月28日	—	文書	メッセンジャー・サービスに関する資料。USARYIS Reenlistment Office, 30th Artillery Brigade, HQ 3rd Forces Service Regiment, USAPACINTSなどはキャンプ瑞慶覧にあったという情報が記されている。
1963年 11月29日	—	文書	貯蔵庫の検討に関する資料。キャンプ瑞慶覧の貯蔵庫が基準に達していないことから、牧港の貯蔵庫の検討の必要があることが記されている。
1963年 8月22日	トレーニング・エリア	文書	在沖米陸軍の訓練に関する資料。キャンプ瑞慶覧を含む演習場での訓練内容及び訓練位置について記されている。
1963年 9月23日	供給関係施設	文書	供給活動の強化に関する資料。キャンプ瑞慶覧を含む、在沖米軍の供給部隊の駐屯箇所について記されている。
1970年 7月 12月	—	文書	海兵隊に関する雑誌。キャンプ瑞慶覧を含むいくつかの基地の空中写真が掲載されている。
1958年 2月8日	トレーニング・エリア	文書	演習に関する記事。Fort Buckner (Camp Foster/Camp Zukeranの南)にあったUSARYISの本部に属する特殊部隊の演習の写真が掲載されている。
1963年 12月31日	ミサイルサイト	文書	第30砲兵隊の歴史に関する資料。部隊の本部はキャンプ瑞慶覧にあること、Nike ミサイルやHawk ミサイルの部隊を構成していたこと、ミサイル発射の写真などが掲載されている。
1955年 7月28日	—	写真	すでに爆発させた爆弾からTNT(トリニトロトルエン：爆薬)の量を調べている写真が掲載されている。
1957年 7月9日	Jacona 移動式発電所	写真	Jacona 船 (US Powership) としての移動式発電所が、那覇港から瑞慶覧停泊所へ向かう写真が掲載されている。
1955年 3月21日	—	写真	75th Regimental Combat Team (第75戦闘隊) の写真が掲載されている。
1955年 4月19日 4月25日 6月8日 1964年 4月15日 9月23日 1965年 1972年 1974年 10月7日 1974年 7月17日	各種施設	写真	基地内の状況、施設の写真。将校宿舎、銀行施設、一般人従業員のための地区であるライカム・プラザ・エリアの外観、民間人用宿舎、劇場、琉球軍と第9軍団の本部、教会、体育館、郵便局、売店、両替場、図書館、通信部隊施設、電話交換台、第173空挺旅団施設、第30対空部隊施設、銀行施設、独身寮施設、女性部隊施設、劇場、ジム施設、ボウリング娯楽施設、社交クラブ施設、アメリカ領事館、DCS (Defense Communications System)、第3 force service 連隊の司令部及び宿営エリア、3rd Force Service Regiment 司令部入口、Stillwell 体育館、ハンビー陸軍飛行場の格納庫。

年月日	場所	資料の種類	概要
1964年 10月 1969年 1月7日 1972年 1974年 7月 1976年 3月20日	各種施設	写真	基地内の空中写真。健康管理施設、モーターパーク、ガンパーク、キャンプ瑞慶覧、3rd Force Service Regiment 司令部ビル、劇場。
1963年 8月23日 1973年 5月4日 1974年 7月25日	トレーニング・エリア	写真	基地内の訓練状況の写真等。コーデル演習場での航空隊訓練米陸軍女性部隊の行進の状況。沖縄戦司令官であった、Simon Bolivar Buckner, Jr. 中将の慰霊碑が糸満にあったが、それをフォート・バックナー基地に移したことが記されている。
不明	瑞慶覧ディーゼル発電所	図	キャンプ・瑞慶覧の建物使用計画が記された地図。瑞慶覧ディーゼル発電所の位置が記されている。
1967年 6月16日	害虫、疫病、伝染病検査の研究所	文書	米軍の施設や仕事を紹介した記事。フォート・バックナー (Fort Buckner) 地区の瑞慶覧 346 ビルは、害虫、疫病、伝染病検査の研究所であり、政府住宅 (Government Housing) 及び建物 (Building) への残留噴霧 (residual spray)、減圧燻蒸 (Vacuum fumigation)、蚊の研究などが行われていると記されている。
1967年 6月18日	—	写真	キャンプ瑞慶覧フォート・バックナー地区の空中写真。
1968年 1月4日	パイプライン	文書	米軍の週間報告書。キャンプ・瑞慶覧内のパイプラインから油が流出し、伊差川を汚染し、その川を水源としている 200 以上の世帯、周辺の土地や水田に被害を与えたと記されている。
1968年 1月10日	—	文書	1968年1月4日に起きた宜野湾市伊佐の油流出に関する資料。汚染の規模や度合いについて記されている。
1968年 9月14日	—	写真	キャンプ瑞慶覧の空中写真。
1969年 3月17日	射撃場	文書	沖縄における演習区域及び使用火器に関する資料。メイ/モスカラ射撃場 (May-Moskala Range Complex) は 1955 年以前に設置され、小型武器の年間資格と経験のために使用されると記されている。
1969年 7月11日	化学部隊	文書	第 267 化学部隊 (267th Chemical Co) は、瑞慶覧 491 ビルから知花エリア 500 に移転したと記されている。
1970年 1月22日	下水処理施設	写真	下水処理施設の写真。当時キャンプ瑞慶覧に新築されたもの。
1973年 11月1日	—	写真	キャンプ瑞慶覧の空中写真(約 700 フィート (213m) 上空、東から西方向)。キャンプ瑞慶覧の空中写真 (PX ショッピングエリア地区)。
1975年 9月12日	—	文書	毒性物質の流出に関する抗議文。キャンプ・瑞慶覧から、かなりの量の薬物の垂れ流しがあった。宜野湾市は、沖縄県と協力してこの薬物を検査したところ、極めて毒性の高いものであったと記されている。

年月日	場所	資料の種類	概要
1977年 1979年	—	文書	アメリカ陸軍太平洋環境衛生技術局の年次経過報告書。 ・1977年 海兵隊予防衛生セクション(Preventive Medicine Section)のサメ忌避剤(Disposal of Shark Repellent)及び海面着色剤(Sea Maker)の廃棄処理の調査を行ったと記されている。 ・1979年 アスベストの危険性及び適正な管理のため、キャンプ・バトラー内の断熱材の調査を行ったと記されている。
1964年 10月	—	写真	キャンプ瑞慶覧の空中写真。
1991年 3月22日	—	図	キャンプ瑞慶覧フォート・バックナーのレイアウト地図

#### 42.7 環境等に関する通常監視について

在沖米軍施設・区域に起因する環境汚染を防止するため、沖縄県では基地排水等の監視、事故時の調査を実施し、水質汚濁の状況把握に努めている。

キャンプ瑞慶覧におけるこれまでの調査において、基準に適合しなかった結果の概要を表 42-5、表 42-6 に示す。

表 42-5 米軍基地排水調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
石川原川	昭和 51 年 5 月 21 日	大腸菌群数	$4 \times 10^4$ coli/cm <sup>2</sup>	排水基準
	昭和 52 年 1 月 19 日	大腸菌群数	$3.7 \times 10^4$ coli/cm <sup>2</sup>	排水基準
	昭和 54 年 1 月 23 日	大腸菌群数	$4.0 \times 10^6$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	昭和 54 年 7 月 10 日	大腸菌群数	$1.6 \times 10^5$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	昭和 55 年 5 月 13 日	大腸菌群数	$7.0 \times 10^4$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	昭和 55 年 10 月 2 日	大腸菌群数	$9.7 \times 10^5$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	昭和 57 年 10 月 6 日	大腸菌群数	$3.1 \times 10^4$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
白比川上流	昭和 57 年 12 月 1 日	大腸菌群数	$5.4 \times 10^3$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
普天間川下流	昭和 56 年 7 月 29 日	pH	8.7	排水基準
	昭和 57 年 6 月 30 日	pH	8.9	排水基準
	昭和 57 年 12 月 1 日	大腸菌群数	$1.2 \times 10^4$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	平成 25 年 12 月 5 日	pH	8.9	排水基準
	平成 26 年 1 月 16 日	pH	9.4	排水基準
普天間川上流(基地流入前)	昭和 54 年 7 月 3 日	大腸菌群数	$3.0 \times 10^5$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	昭和 55 年 1 月 8 日	大腸菌群数	$4.2 \times 10^4$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
		油分	6.5ppm	排水基準

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
普天間川上流	昭和 51 年 5 月 21 日	大腸菌群数	$1.2 \times 10^6$ coli/cm <sup>2</sup>	排水基準
		油分	6.3ppm	排水基準
	昭和 57 年 6 月 30 日	大腸菌群数	$1.5 \times 10^5$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準
	昭和 57 年 12 月 1 日	大腸菌群数	$6.0 \times 10^3$ coli/cm <sup>3</sup>	排水基準

◆ 一律排水基準

pH (5.8 以上 8.6 以下)、大腸菌群数 (日間平均 3,000 個/cm<sup>3</sup>)、

n-ヘキサン抽出物質含有量 [油分] (鉱油類含有量: 5mg/L、動植物油脂類含有量: 30mg/L)

出典: 「昭和 51 年度版 環境白書」(1977、沖縄県)、

「昭和 53～平成 16 年版 環境白書 (昭和 52～平成 15 年度年次報告)」(1978～2005、沖縄県)、

「環境白書【平成 16～26 年度報告】」(2006～2016、沖縄県)を参照

表 42-6 基地周辺公共用水域監視調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	基準
ハンビー飛行場沖	昭和 52 年 8 月 16 日	DO	6.2	海域: A 類型
石川原川沖	昭和 52 年 8 月 16 日	DO	5.5	海域: A 類型
		大腸菌群数	$1.0 \times 10^4$ coli/cm <sup>2</sup>	海域: A 類型
	昭和 53 年 11 月 9 日	COD	4.1ppm	海域: A 類型
		大腸菌群数	$6.8 \times 10^5$ coli/cm <sup>3</sup>	海域: A 類型
石川原川河口沖	昭和 55 年 1 月 29 日	pH	8.6	海域: A 類型
		COD	7.9ppm	海域: A 類型
		大腸菌群数	$3.4 \times 10^4$ coli/cm <sup>3</sup>	海域: A 類型
普天間川下流	平成 13 年 11 月 7 日	ほう素	2.63mg/L	環境基準
	平成 13 年 11 月 27 日	ふっ素	0.837mg/L	環境基準
		ほう素	3.15mg/L	環境基準
	平成 13 年 12 月 20 日	ほう素	1.21mg/L	環境基準
	平成 14 年 1 月 22 日	ふっ素	0.87mg/L	環境基準
		ほう素	2.92mg/L	環境基準
	平成 14 年 2 月 21 日	ふっ素	1.09mg/L	環境基準
ほう素		3.16mg/L	環境基準	
普天間川下流(基地外)	平成 21 年 9 月 30 日	ほう素	2mg/L	環境基準
	平成 27 年 1 月 20 日	pH	9.1	河川: B 類型

◆ 生活環境項目に係る環境基準

河川 (B 類型): pH (6.5 以上 8.5 以下)、大腸菌群数 (5,000MPN/100mL 以下)

海域 (A 類型): pH (7.8 以上 8.3 以下)、COD (2.0mg/L 以下)、DO (7.5mg/L 以上)、

大腸菌群数 (1,000MPN/100mL 以下)

◆ 健康項目に係る環境基準

ふっ素 (0.8mg/L 以下)、ほう素 (1.0mg/L 以下)

出典: 「昭和 51 年度版 環境白書」(1977、沖縄県)、

「昭和 53～平成 16 年版 環境白書 (昭和 52～平成 15 年度年次報告)」(1978～2005、沖縄県)、

「環境白書【平成 16～26 年度報告】」(2006～2016、沖縄県)を参照

また、嘉手納基地以南の返還予定基地周辺において、平常時の環境状況（汚染物質濃度）を把握するため、沖縄県では化審法第一種特定物質等を含む地下水質調査を平成30年3月から不定期で実施している。その結果を以下に示す。

○平成29年度米軍基地周辺地下水質調査結果

○平成30年度米軍基地周辺地下水質調査結果

○令和元年度米軍基地周辺地下水質調査結果

○令和2年度米軍基地周辺地下水質調査結果

○令和3年度米軍基地周辺地下水質調査結果